

## GNOMES



座ってきつ声が大きくなっていく。一人の客は黙々とつまみをつまみつつ、ちょっと高めの冷酒などを頼んでゆっくり飲んでいるようでも目が落ちつかない。最悪なのは太った上役に引き連れられた部下の五人ずれで、「おまえはなー・・・」などといびられながら飲んだら、「月の明るい夜ばかりじゃないぜ・・・」と思うのも当然だろう。若めの二人づれなんてのはたいがい高価な料理をたくさんとって半分以上は残していく。こんなのは逮捕したほうが良い。よっぽらいたちはそれぞれの生態で夜な夜なガード下を徘徊している。

そういえば、まあ、なにがそういえばかわからないが先月の講演もなんとか終わった、何万冊か作ったパンフレットもなくなったそうだからそれだけイベントの参加者があったのはめでたい。ついでに「建設物価」というじみーな雑誌から原稿依頼も来て、少しでも金になるならなんでもやります状態だから、すぐひきうけた。ただ10月号だからそれまでノームがあるかどうかあやしいものです。友人からも「大学と一緒になにかやりましょう。何をやるうか考えましょう。」などとあやしい誘いも目の前にひらひらされたりしている。怪しいことばかりだが怪しいことは良いことだ。怪しく生きた方が楽しいだろう。

ノームはあいかわらず非営利団体状態の崖っぷち状態ですが、どうせ小さい所帯ですからもっと自由なかたちにしてもっと自由に動けるように出来ないか、固定した事務所なんかいらぬではないか。仮想事務所をネット上に作って、天気の良い日に気持ちの良い公園などで会ったりして調整しながらやるのもありじゃあないだろうかとも考えています。もっともそうなるとまとまったルーチン仕事は減るだろうけれども、逆に得る物も多いはずだ。などともう少し考えてみます。一つ一つきちんと向かっていって、出てくる事を甘受するのがいいと思っています。

ノームはひまになりました。友人達の来訪はいつでも歓迎します。

<http://www.interq.or.jp/japan/gnomes/gnomes1>

TEL/FAX 03-5600-0195 高村 哲 GnomesJpn@aol.com